

1000人近くがつどい、「介護人材確保のための市民フォーラム」

多くの人がいつか必要になる介護。ところが、介護現場では慢性的な人手不足が続いています。

こうした現状を市民が共有し解決の道を探ろうと、市民有志が計画したフォーラムが、6日教育プラザで行われました。

主催者の一人で県介護福祉士会副会長の倉茂浩司さんは、最初の挨拶で、「介護現場の人手不足は、サービスの供給不足、介護職員の過重労働、サービスの質の低下などにつながっている」と指摘し、「多くの市民とともに解決の道を探りたい」と述べました。

次に、元日本介護福祉学会会長・元京都女子大学教授の井上千津子さんが基調講演を行いました。井上さんは、「老後の生活について多くの人が持っている不安要素の第一は介護のこと。そして、老後の安心とは、『必要な時に、必要なサービスが、必要な量だけ届く』こと。しかし、現在の介護をめぐる社会的課題は、『介護を担う人材がきわめて不足していることだ』と解き明かし、人手不足の現状、その影響、なぜそうした状況になっているのかを解説しました。そして、『介護労働は『介護職のやりがいと犠牲の上に成り立っている』砂の上の楼閣といえる」と指摘しました。

そして、介護労働に携わる人材確保の条件として、「魅力ある職業とするために、社会的に職業として承認されること、介護職として

高度化・複雑化する介護ニーズにきちんと応えられる実践力を習得すること、ライフワークとして選択できる労働に見合った経済保障、身分保障の確立が不可欠」と指摘しました。また、「魅力ある職場づくりのために、福利厚生の実施や組織的な研修体制の確立と充実、キャリア形成のための現場における組織的な教育体制やスーパービジョン体制の確立などが不可欠であると指摘しました。

そして、「人間は最終的には、他者の支えのなかで一生を終わることになるが、介護労働は、この有限の命を価値あるものとするために不可欠な営みである」「介護労働の価値とは、その人の生き方にかかわる行為であり、人の命と生活に責任を持つ行為である」として、介護の社会的評価を高めることの重要性を説きました。

後半のシンポジウムでは、介護サービスの利用者家族、介護現場での介護職員、介護サービス事業所の施設長、介護福祉士団体役員、介護福祉士養成機関校長の5人が、シンポジストとして体験や意見を語りました。

ここでは、「介護サービスを選ぶための情報が無いのは不安。特に介護サービスの質を決めると言われるケアマネージャーの情報が利用者には示されていない」という指摘や、「県ホームヘルパー協議会の会員は毎年減少しているが、これは人員不足で研修に出たり役員に

なったりすることができないことが原因」「介護施設の57%が人手不足で、特に特別養護老人ホームでは80%が人手不足だ」などという事実が述べられました。

最後に、講演や討論を含めて「介護ではちゃんとした人に見てもらいたい、そのためには、介護職員の経済保障、身分保障が不可欠。しかし、現在の介護保険の介護報酬の枠組みでは限界がある。市町村がプラスαを行うことが必要だ」同時に介護職員の質が低下しないようなくみ作りも必要だ」というまとめがされました。そして、このことは参加者全員の共通認識となりました。

日本共産党議員団からは、橋爪、橋本、平良木の各議員が参加しました。



基調講演を行う井上千津子元教授

老いても安心して暮らすために

全避難所に洋式トイレを大雨災害を総括

4日の市議会災害対策特別委員会で、先月上旬の大雨災害の総括が行われました。

担当の橋爪議員は、この間の関係職員の努力を評価したうえで、いくつかの問題点と課題を指摘し、改善を求めました。具体的には、水防情報についての市と県との共有・連携、指定避難所における洋式トイレの設置、農地の維持に関係しながら、行政の支援を受けられないケースへの対応などです。

この議論の中で、市の指定避難所129か所のうち洋式トイレが設置されている避難所は107か所で、設置率は83%であることが明らかにされました。橋爪議員は「残っている避難所でも早急に整備するように」と訴えました。これに対して防災危機管理部長は、「お金がかかる問題であるので、和式トイレを洋式化して使う備品整備も含め検討していく」と答えました。

また橋爪議員は、比較的大きな規模の土砂崩れが畑のそばで発生しているにもかかわらず、こうした場合の復旧は行政からの支援を受けられないケースがあることを紹介し、「制度の弾力的な運用をするか、それができない場合は新たな救済の仕組みづくりを国、県に働きかけるべきだ」と求めました。担当課は、「現状では困難である」としていますが、何とか救いの手を差し伸べてほしいものです。

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 558 2017年8月13日

連絡先 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)